

重点施策点検・評価表

4-1-1

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
1	大館の歴史と文化を学ぶ機会を提供し、市民の誇りと自信を醸成する		担当課(館)
	① 企画(特別)展の開催とホームページを活用した効果的な情報発信		歴史文化課
	活動内容	大館の歴史や自然及び文化財等について、市民の関心を高めてもらえるように企画展を開催し、ホームページやフェイスブック、ツイッター等のツールを活用してリアルタイムに情報発信していく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 新型コロナウイルス感染症が5月から5類感染症に移行したことで、人々の移動に制限がなくなり歴史文化課所管施設への来館者数の回復が見込まれる中、郷土博物館や鳥潟会館などの施設情報・天然記念物・イベントなどをお知らせするホームページの更新やフェイスブックなどを積極的に活用し、情報発信を行った。 イベントについては、6月10日「鳥潟右一没後100年記念講演会」の開催にあたり、世界初の実用的な無線電話方式である「TYK式無線電話機」を発明した博士の功績などについて、ホームページや新聞等で情報発信し、参加を呼び掛けた。また、長走風穴館のYouTube動画やニホンザリガニの動画もリアルタイムで発信した。 郷土博物館の企画展は、郷土の画家を含む芸術家の絵画や陶芸品などの作品展を開催し、市内外から多くの方にご来館いただいた。今後もニーズに合わせて企画していきたい。	
	課題等	新型コロナ感染症の5類移行により、人々の移動が戻ってきている。 各施設への見学の機会を増やすため、地元新聞やホームページ、フェイスブック等のSNSによりタイムリーにPRし、幅広く情報発信に努める。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	情報発信がたくさんあり、新聞でも目にする機会が多くなったと思う。興味や関心が高い人が日本全国、世界中にいると思う。効果が見えてきている。さらに充実させてほしい。 ただ、ニーズが多くなるとその対応が大変になる。うれしい悲鳴だと思うが頑張ってもらいたい。期待している。	

重点施策点検・評価表

4-1-2

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
1	大館の歴史と文化を学ぶ機会を提供し、市民の誇りと自信を醸成する		担当課(館)
	② 博物館講座等の開催		歴史文化課
	活動内容	北鹿地域の文化財や歴史、自然などについて、関係市町村と連携して博物館講座等を開催する。また、大館郷土博物館において、発明クラブやわくわくサイエンス、出前講座などを関係団体と協力・連携して、ニーズに合わせた学びの機会を提供していく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		市の歴史や自然などについての出前講座を10件実施した。 子どもたちの知的探求心を刺激し、科学に関心を持つきっかけを提供するための科学教室「わくわくサイエンス」は、8回実施した。 5年度の講座は、6月に「鳥潟右一博士没後100周年記念講演会」を会場とオンラインで開催し、多くの方々に偉人の業績を知ってもらうことができた。また、2月は「おおだて博物館講座」を開催した。はじめに県立博物館の職員から北鹿地方に関係のある「黒鉾鉾床」についての講演を行い、続いて当博物館職員や地元高校生物、歴史団体の方が発表し、多岐にわたる内容について学習していただいた。 特別展・イベント等は、「大館佐竹家資料お披露目展」、「昭和・平成ロマン派美術『油絵から陶芸まで』」や「縄文土器展」、「おひなさま展」を4回開催した。 また、大館の自然や歴史、文化などに関する研究紀要「火内」を発行した。	
	課題等	北鹿地域の市町村にある自然や歴史、文化財などについて、その魅力を広く発信するために、連携して博物館講座等をオンラインでの視聴も検討して開催していきたい。 また、市民を対象にした自然や歴史、文化財などについて、各種講座を開催し情報発信して、学びの機会を提供していきたい。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	具体的なものがあり、趣向を凝らしてやっている印象がある。知的好奇心や探求心を刺激し、子どももワクワク、大人もワクワクというものが形として出てきていると思う。 反響が大きくなるとその対応が大変になると思うが、見える形になってきている。ぜひ北鹿市町村との連携が形になることを期待している。	

重点施策点検・評価表

4-2-1

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
2	郷土の伝統文化を継承・普及する活動を支援する		担当課(館)
	① 大館市郷土芸能保存協会、大館市文化財保護協会と連携した事業の推進		歴史文化課
	活動内容	大館市郷土芸能保存協会に加盟する団体の郷土芸能の記録保存や継承、公開の機会を支援する。また、市内に存在する文化財の公開や保護活動などを行っている大館市文化財保護協会の事業を支援する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 大館市郷土芸能保存協会加盟団体は、きりたんぼまつりやアメッコ市などのイベントで、獅子踊りなどの郷土芸能を市民に披露した。 大館市文化財保護協会との共催による文化財展覧会は、10月7日から9日までの3日間、中央公民館で開催した。今回は第51回目で「史料・絵図・写真による大館の歴史」をテーマに絵図や史料を展示したほか、江戸～昭和期の書画や江戸時代の刀剣などを展示し、市民の関心を高めることができた。また、伝統文化親子教室での伝統芸能の体験発表も行うことができた。 また、県の主催による「新・秋田の行事in大館」が11月にニプロハチ公ドームで開催され、下川沿中学校生徒による川口獅子踊りが披露された。	
	課題等	大館市郷土芸能保存協会は、高齢化や後継者不足などにより活動を継続していくことが難しい状況となっている。 地域の郷土芸能を継承していくため、小中学校等での活動の支援を継続していく必要がある。また、郷土芸能の記録保存について検討する段階にあると思われる。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	外から見ていると郷土芸能の発表などが、よくやられていると感じる。その裏には各団体の努力があつての事だと思う。 少子化などのさまざまな課題がある中で、後継者については難しいと思うが、活動支援を続けるとともに、記録の保存に知恵を絞っていただき、丁寧に保存して後世に伝えてほしい。	

重点施策点検・評価表

4-3-1

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
3	文化財の保護と調査を進め、未来に伝える		担当課(館)
	① ニホンザリガニの生息地再生と増殖		歴史文化課
	活動内容	天然記念物「ザリガニ生息地」の再生を目指す増殖事業が令和5年度で7年目を迎える。ニホンザリガニの増殖技術の確立に向けて、専門家など関係者との連携を図り情報交換をしていく。第1人工生息地においては、生息個体数が安定化してきており、これを維持していけるように、生息環境を適切に管理しモニタリングを行っていく。 また第2人工生息地の造成事業は令和5年度が2か年目となり、計画的に整備していく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る ☒ 目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95～100%) (80～94%) (80%未満) 天然記念物を保存する気運を醸成するため、大館郷土博物館と男鹿水族館での飼育展示を継続し、教育普及に努めた。 令和元年度に整備した第1人工生息地のモニタリング調査を業者に委託してきたところ、令和5年度から大館鳳鳴高校生物部に調査協力してもらった。4年続けて30匹以上の生息が確認されており、個体が定着していると考えられる。また、柵の周囲に植えた草木も順調に繁茂しており、生息環境として整ってきている。 一方、第2人工生息地の令和5年度分の造成工事の入札不調が続き実施できなかったため、文化庁と協議して翌年度への繰越事業となった。最終的に請負業者が決まり、6年の8月末を工期として契約することができた。	
	課題等	第1人工生息地でニホンザリガニの生育が安定してきているが、博物館内での水槽飼育による増殖技術がまだ確立されていないため、引き続き専門家の助言や協力を得ながら研究していく。 第1人工生息地のモニタリングを継続し、ザリガニが安定して生息できるよう環境を維持していく必要がある。 また、第2人工生息地の整備については、令和5年度の繰越工事分を計画的に進めたのち、令和6年度に計画している造成工事にスムーズに移行できるよう適切に監理していく。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	頭の下がる地道な活動だと思う。自然が相手であり、ましてや天然記念物に関わっている。なかなかゴールは見えないと思うが、地道な取り組みと積み重ねがいずれ花開くだろうと願っている。 市民への情報発信について、お知らせできる部分とできない部分があり難しいと思うが、頑張してほしい。	

重点施策点検・評価表

4-3-2

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
3	文化財の保護と調査を進め、未来に伝える		担当課(館)
	② 市内遺跡発掘調査及び記録・出土品整理		歴史文化課
	活動内容	大館城跡の内、旧庁舎跡地の発掘作業が最終年度となる。大館城跡全体の発掘調査記録の刊行に向けて、出土品の整理・記録・保存を行っていく。また、市内の官民の開発事業や住宅建築等に係る発掘調査及び試掘・確認調査を、相手方の理解を得て連携して適時対応していく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		新庁舎建設事業に伴う令和5年度の現場発掘作業は、4月から7月にかけて旧庁舎建物跡地で完了した。足掛け3年におよぶ旧庁舎跡地の発掘調査により、かつての外堀跡や柱穴、井戸などが確認されたほか、陶磁器や木簡などのおよそ10,000点以上の遺物が出土した。 発掘調査報告書の刊行に向けて、これら出土品の整理・記録・保存を行った。 また、この大館城跡発掘調査結果について、出前講座の依頼があり、担当者が講座で説明し、関心を高めることができた。 官民の開発事業に伴う、遺跡の詳細分布を確認するための発掘等調査は、個人住宅建設に伴う発掘調査が1件、県営圃場整備事業や個人住宅・店舗等の建設に伴う試掘・確認調査を12件実施した。	
	課題等	令和5年度までで完了した新庁舎建設事業に伴う発掘作業で確認できた遺構や出土品などについて、発掘調査報告書の刊行に向けて、その調査記録や出土品の整理・記録・保存を着実に実施していく。 大館城の歴史や埋蔵文化財への興味・関心を高めていくため、発掘調査の成果についての資料展示や講座等を開催していきたい。 また、市内の開発事業等に伴う発掘調査についても、理解を得ながら進めていく。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	地道な活動で頭が下がる。専門性が必要なので、誰でもいいというわけにはいかない。保存していくのも大変な労力だと思う。これから整理、記録、報告書作成に向かうが、これがスタートのようにも感じる。 莫大な作業量だと思う。市民への理解を深めるため頑張ってもらいたい、無理をしないようにしてほしい。	

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
3	文化財の保護と調査を進め、未来に伝える		担当課(館)
	③ 鳥潟会館庭園の国指定を目指す取り組み		歴史文化課
	活動内容	鳥潟会館の庭園について、令和4年度末に、4か年にわたって取り組んだ文化庁の名勝調査事業により「鳥潟会館庭園名勝地調査報告書」を刊行した。令和5年度はこの報告書をもとに国の名勝指定を目指して、文化庁に申請手続きを進めていく。また母屋については重要文化財の指定を目指して取り組みを始める。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満)	
		令和4年度末に完成した「鳥潟会館庭園名勝地調査報告書」を基に、国の名勝指定を目指して庭園の文化的価値を著わし、図面等の求められている様式を取りまとめて、県とともに12月下旬に文化庁とヒアリングを行った。 ヒアリングによる修正箇所を整えて、2月上旬の締め切りまでに意見具申書の最終版を提出することができた。 また、並行して母屋の重要文化財指定を目指すため、国内の重要文化財指定に向けた調査報告書作成に実績のある事業者について情報収集を図った。	
	課題等	令和5年度中に文化庁に意見具申書を提出済みであるが、名勝指定の答申が出されるのが6年度の6月に予定されている文化庁の審議会の結果次第となっている。 無事指定が答申された場合、見学者の受け入れに万全を期し、併せて記念事業を開催していきたい。 また、母屋の重要文化財指定に向けて、県と連携して調査事業の着手について準備していく。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	これまでの努力が報われることを祈っている。パッと花開くことを期待して待ちたいと思う。名勝指定が決まれば市民の関心も高まる。今後もよろしくお願いいたします。	

重点施策点検・評価表

4-4-1

基本目標			
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策			
4	歴史的風致維持向上計画に基づき、風致を構成する有形無形の文化財の保全と活用に努める		担当課(館)
	① 歴史的風致維持向上計画の事業に取り組む民間組織への支援		歴史文化課
	活動内容	文化遺産活用まちづくり実行委員会が文化庁の地域文化財総合活用推進事業を活用して作成した大館神明社例祭余興奉納行事のPR動画や大館ばやし教則DVD、情報発信のためのホームページなどのほか、ヘリテージマネージャー育成事業による人材育成などの成果を活用し、郷土の伝統芸能の継承と後継者の育成に、関係課と連携して取り組んでいく。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 文化庁の補助による文化遺産活用まちづくり実行委員会の事業が令和4年度で終了し、5年度は実行委員会の加盟団体が、それぞれ補助事業の成果品を活用したPR事業などを展開した。 大館神明社例祭では、各町内でお囃子や踊りを継承し、コロナ禍前の通常の様で開催することができた。 建築士会によるヘリテージマネージャーの講演会は、事務局担当会社が通常業務多忙のため準備ができず、開催できなかった。	
	課題等	伝統芸能組織の後継者が減少しており、文化遺産活用まちづくり実行委員会への新規加入には至らなかった。 今後も伝統芸能の継承と維持保存に向けて、関係団体と取り組んでいく必要がある。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	いろいろな問題を含んだ難しい課題だと思うが、祭りのPR動画やお囃子のDVDなどは効果的に機能していると感じる。そういったものを起爆剤として、大館に関係する人以外も掘り起こして進めていただきたい。また、活動の記録保存が必要だと思う。先進事例などを参考とし活用しながら手を打っていただきたい。	